ＹＭＣＡ学院高等学校

２０周年記念礼拝・
記念発表会

－今の高校生が考えていること－

<記録>

日時：2022年10月9日（日）
　　14時00分～16時30分

場所：大阪ＹＭＣＡ会館　2階ホール

第一部　記念礼拝

司会　1A 世利 まな

奏楽　1E 川野 葵

・・・前奏・・・

祈　祷

讃美歌　21-493番

聖　書　ルカによる福音書　　聖書朗読（日本語） 2M 山本 純平

19章1～10節　　（英 語） 2D 黒田 夏帆

奨　励「主の救いを目指して」　　牧師 福島 義也

(日本基督教団 河内長野みぎわ教会)

祈　祷

讃美歌　21-18番

祝　祷

・・・後奏・・・

1A 世利 まな

1E 川野 葵

2M 山本 純平

2D 黒田 夏帆

奨励「主の救いを目指し」

福島 義也

今ご紹介をいただきました福島義也と申します。本日このＹＭＣＡ学院高校の20周年という記念すべき日のこの礼拝に、神様の御言葉を取りつがせていただけるその役割を与えられたことを心から感謝いたします。このひととき、皆さんとご一緒に神様の御言葉を分かち合いたいと思っております。

このＹＭＣＡ学院高校は初代の校長先生である桜井和之先生の願い、当時大検を受ける生徒たち、今で言う高卒認定試験ですけれども、それを受ける不登校の状態である子どもたちを集めて、その子たちの居場所を作ってやりたい、そういう思いで始まったのがこのＹＭＣＡ学院高校です。そうやって不登校だった子たちが自分たちの居場所を求めてやってきて、そこで学び、そしてその先の進路へと進んでいく。そういう場ができたことによって、キリスト教主義の通信制の高校が生まれました。

キリスト教主義というものを背負ってこの高校は歩んでおりますが、そもそもキリスト教主義とはどういうことでしょうか。いろいろな言い方ができると思うんですけれども、イエス・キリストのなさるように行っていく、という言い方ができると思います。イエス・キリストのなさること、具体的にはどうでしょうか。先ほど読んでいただいた聖書の箇所をもとにして具体的に見てみたいと思います。

この時、イエス様はザアカイという人のところにやってきました。彼は徴税人だったんですけれども、このときの徴税人と言うのは、不正を行って人からお金を騙しとっていました。ですからお金持ちなんですけれども、みんなからは嫌われて友達がいない、ある意味孤独な人でした。そんなザアカイのところにイエス様がやってこられて、彼に対してこうおっしゃいました。「ザアカイ、急いで降りてください。今日はぜひあなたの家に泊まりたい。」あなたの家に泊まりたいと言ってくれるという事は、私はあなたと一晩共にしたい、いろんなことを語り合いたい、腹を割って心を開いて語り合いたい、友達になりたい、そういう思いが込められていたと思います。

ザアカイをどうにかしてやりたいと思ったならば、あなたがやっている事はこういうところがよくない、あれもダメだ、これもダメだと具体的に指摘をしたかったかもしれません。

けれどもイエス様はそうはおっしゃらなかったのです。何一つザアカイのやっていることを非難もされず、だめなことを一つ一つ指摘もされませんでした。ただ、寄り添って、信じて・・・その結果ザアカイは自分から「私は財産の半分を貧しい人に施します。だまし取っていたものは倍にして返します」と言うことができました。新しい生きる力がザアカイに与えられた瞬間でした。

親として不登校の我が子がいる時、いつかこの子が動き出すまで信じて待つ・・・それはとても難しいことだと思います。実際不登校の子を持つ親でなければわからないことがいっぱいあるかと思います。私もそうでした。娘が不登校になりました。今日は学校に行くかな、どうかな、とそう思いながら様子を見ていたら、行かないようだ、学校に連絡しなきゃいけない、その時のざわざわした心を今でも忘れられません。でももっと苦しかったのは子ども本人だったと思います。それも経験しないとわからなかったと思います。親も子どもも、余裕がなくなります。

私はYMCA学院高校で非常勤講師をさせていただいておりますけれども、自分の娘が不登校だった時に、YMCA学院高校の先生たちの姿を見ました。なかなか学校に来られない子もいる。そんな中で信じて待ってくれている。いつも寄り添ってくれている。そんな先生たちの姿を間近で見せていただき、また同時にそんな先生に待ってもらってやっと学校に来ることができて一生懸命単位をとって卒業していく、そんな生徒たちの姿も間近で見せてもらえました。「ここにキリスト教主義があるんだ」と思いました。

自分が牧師でありながらイエス・キリストを信じる身でありながら、この学校の先生たち、生徒たちから大切なことを教えてもらいました。そこから自分自身が少しずつ変わってきたことも感じました。この学校には一人ひとりのことを信じて待つキリスト教主義があります。キリストによる救いがあります。そんな愛をいっぱい受けて育っていく、巣立っていく、そんな生徒たちの姿を本当にみんなで喜びながら送り出す素晴らしい学校だと、私は私自身が非常勤講師をさせてもらっている学校ですが、そこに関わることができてありがたく感じております。

神様の愛が豊かに表されている、豊かに注がれている、神様の救いが一人ひとりに注がれている、この学校が始まって20年、今こういう状態で歩んでいます。これから先も神様の救いが一人ひとりに届けられていきますように。神様の豊かな祝福が注がれていきますように。心より祈ってまいりたいと思います。

第二部　メッセージ

[I] 校長「今まで、そしてこれから」

本日はYMCA学院高等学校の20周年に起こしいただき、ありがとうございます。今日はこんな日を迎えられて嬉しく思います。

外に掲示しています「りんごの樹」には生徒たちの学校への思いが書かれてあります。そこには「将来の夢を見つけることができた大切な場所」「どんな自分でも受け入れてくれる大切な場所」「ありのままの姿で通える学校」「自分が前に進むための居場所」などがありました。このような生徒たちの言葉に、私たち教職員は本当に励まされます。日々の生徒とのかかわり、そして20年の積み重ねにも胸が熱くなります。

三部では生徒たちの発表があります。2015年、私が着任時「生徒は繊細なので、温かく守らないといけない存在。人前での発表はプレッシャーが強すぎるのではないか」といった意見が多数でした。でも生徒たちとかかわる中で、生徒は繊細で傷つきやすくもありますが、たくさんの可能性があり、少し背中を押すとどんどん成長する姿を見てきました。そこで昨年初めて、小さな発表の場を行いましたが、そこに自主的に手をあげた生徒が複数いました。それに功を奏し、今回も自主的に生徒が参加できる場を創り、このように参加してくれたことに感謝します。

さてYMCAは、1844年にイギリス・ロンドンで創立した社会教育団体です。YMCAは「すべての人をひとつにしてください」というイエスの祈りに励まされながら、170年の歴史の中で、次の世代のために「知性」「精神」「身体」を表わす逆三角形をシンボルとし、この三つのバランスの取れた人の育成を目指してきました。

1990年代、全国的に不登校や高等学校中退者が増え、従来は勤労青年のための学びの場だった通信制高校がその受け皿となりました。不登校や高校での進路変更を余儀なくされている生徒たちに対して、イエス・キリストの愛と奉仕の生き方に学び、希望を持って共に生きる社会の実現というYMCAの願いと蓄積してきた資源、専門的なノウハウから高校を開設することが必然と考えられ、YMCAは2002年新しいタイプの総合学科の高校を開校しました。

中学、高校は進路指導、生徒指導といった領域がありますが、学院高校では開校以来進路支援、生徒支援とよんで教育活動をしています　私たちは進路は親と子が悩み、生徒自身が決める、学校はそれに寄り添うことで支援といっているのです。それは学校から管理されることの解放であり、自分で決めて、自分らしく生きてほしいとの願いからです。

今年、学習指導要領が改訂されました。従来の「知識・技能」だけではなく、「思考力・判断力・表現力、学びに向かう力」も高校で育成することが柱となりました。それらは、YMCAでは以前より、体験を通した活動で培ってきました。ただこれらは力、能力を重視したものです。YMCA学院高校はそれだけでは十分ではないと考えています。もっと大事なもの。それはその人の存在そのもの、生徒がそこにいるだけで価値があるということです。できる、できないではない、いうなれば命、命そのものに価値があり、私たちは生徒たちに「あなたがここにいるだけで充分」とそのメッセージを出し続けていきたいと思います。「自分には生きている価値がない」と思っている生徒にぜひ届けたいメッセージのひとつです。

YMCA学院高校の生徒は背景、興味、それぞれがもつ悩み、課題も一人ひとり驚くほど違い、求めているものも異なります。学校運営の視点にたてば、同じような動機、学力、進路の生徒たちばかりだともしかしたら教育活動はやりやすくなるかもしれません。そんな時、「私たちの学校の設立の願いは、学校は誰のためにあるのか、何のための学校か」と立ち止まります。

初代桜井校長が紹介された聖句があります。
「神の国を何にたとえようか。パン種に似ている。女がこれを取って3サトンの粉に混ぜると、やがて全体が膨れる」（ルカ13:20-21）

純粋なまじりけのない小麦粉で作ったパンは膨らまずおいしくない、でもパン種、イースト菌をいれると、つまり異なるものをいれることで膨らみ、おいしく柔らかなパンができる。という意味です。人も同じです。いろいろな人がいて、それぞれ違いあり、その人たちの出会いがあって、人間として豊かになる、人は出会いの中で実り豊かになる」と結ばれました。

私たち教職員は自分の価値観を振り返ろうとしてきています。小さい時から、学校でも家庭でも「成績が良い子がいい。明るくはきはきしている子がいい。子どもは元気。男の子は泣かない。」そのように育てられてきた人も多いと思います。
でも本当にそうでしょうか。勉強が苦手でも、おとなしくても、つらかったら泣いてもいい、「今自分

は幸せ」「自分らしく生きている」と思えることが人として大切に思います。
YMCA学院高校では生徒との3つの約束、自分を大切にする、周りの人を大切にする、学びをあきらめない、この3つを守ろうとしてもらえますか？と入学時に尋ねます。これらが「自分らしく生きる」につながると考えているからです。
教員不信や学校不信をもって入学する生徒も多くいますが、学院高校ではこんな学校もあるんだ、こんな先生、こんな大人っていいなあ、そんな出会いを願っています。いろいろな生徒がいろいろな夢と重荷をもって集まり、当然摩擦もおこります。でもこれ自体が社会なのです。

一人ひとりが多彩な出会いを通して、新しい自分に出会い、幸せを感じ、それぞれの社会を拓くことを願っています。一人がよくなると世界がよくなる。YMCAのキーワードです。これからも生徒たち一人ひとりが幸せな生活を歩めるよう、私たちは教育活動を進めていきます。

[II] 生徒インタビュー

司会：土山侑里子（卒業生）

第二部の司会の2016年度卒業土山侑里子です。本日は在校生がなぜYMCA学院高等学校の入学を決めたのかなどインタビューをしていきます。
ではまず私の自己紹介から始めます。現在社会人2年目で、精神科病院でケースワーカー、医療福祉相談員として働いています。
本校に入学したのは2014年です。小・中学校は不登校で通学に自信がなく、地元ではない遠方であること、時間割とクラスがあるマイスペースコースを選びました。1年間クラスの皆と学び、遊びでも楽しく過ごす事が出来ました。
また軽音サークルでドラムを基本にメンバーと共にライブや遊びに行くなどで過ごしました。3年次は友人とともに進学コースを選び無事に単位を取り卒業しました。
介護福祉士など福祉職への道を希望し、四天王寺大学人文社会学部人間福祉学科健康福祉専攻に入学しました。大学では社会福祉士と精神保健福祉士を目指し、様々な実習経験を積み国家試験勉強をしながら大学での学びを深めました。部活はボランティアクラブに所属し、2年幹部をするなどあっという間の4年間でした。

高校在学中で印象的だったことは3点あります。
1点目は、先生との距離が近く、なんでも相談しやすい点です。当時通学に慣れず、人見知りで誰かに声をかけるのが怖かったこともありましたが、先生との距離が近い事で学校生活や不安な事、勉強での不明点など様々な対応をして下さり、コミュニケーション能力や学力、社会経験を伸ばしていくことが出来たことです。

２点目は、様々な年代の方が在籍しており、壁を超えて授業や総合学習の時間等で関わる事が出来る点です。授業以外にも部活やトレーニングルームの利用などで共通の話題がある友人たちと出会うことで刺激を受け、自分の中の価値観が変わりました。

３点目は、自分のやりたいことを言え、実現できる点です。これは部活やファミリーカーニバルなどの特別活動で培いました。行事ごとやライブの構成など先生たちが決める所もありますが、自分たちの意見を傾聴し尊重して下さるので、これやってみたい！と希望を持つことができます。更にそのあとのどういう風に様々な意見組み込むか、実際どのように動くかなども考える力も同時に身につけられるのでは無いかと感じました。

先生との距離の近さゆえにぶつかったり、部活での部員や活動について悩むことで葛藤し、上手く活動が回らず私生活にも影響してしまうこともありました。そんな出来事があったからこそ、相手とのコミュニケーションの円滑化を考えるようになり、今の相談員の仕事にも活かして日々努力して頑張っています。

私が在学していた時よりも、YMCA学院高等学校は様々な変化を続けていると思います。それでは在学生の生の声を聴いてみたいと思います！

[III] インタビュー(要約)

□NOOR AHMED DHEYAB DHEYAB（ヌール・アハマド・ディアボー ディアボー）

（トランスリンガルコース・3年次生）

高校に進学するまで十分な日本語を学べず、中学校の先生と進学先を探す中でYMCA学院高等学校と出会いました。通学できるようになってからは、先生のわかりやすい話し方のおかげで学びやすく、勉強しやすいと感じています。特別活動では、自分を振り返ることが、自分自身を大切にすることにつながると学ぶことができました。現在、校内の図書コーナーはスペースが小さく、難しい日本語の本しかないので、様々な言語の本が置かれた図書室がほしい。今、YMCAの専門学校への進学も検討しています。これからも日本に住み、自分のやりたいビジネスを考えていきたいです。

□松井心望 （マイスペースコース・2年次生）

中学生の頃は不登校で、当時の先生にすすめられて入学しました。1年次生のときに、自由に絵を描いたり、おしゃべりする「おえかきサークル」を作り、友人ができました。この学校はみんなが優しく居心地が良い場所で、先生も寄り添ってくれます。「クラスワーク」も楽しんでいます。将来は本を作る仕事に携われるよう頑張りたい。今の学校にはとても満足しています。

□平松咲希 （Yチャレンジコース・3年次生）

兄がYMCAの在校生だったことから入学しましたが、思った以上にとても自由な学校でした。かかわる人たちとの距離感もよく、友達とは放課後も遊びに出かけたりしています。自分の将来の夢である“声優”の専門学校の進学が決まっていて、現在進行形で勉強中…。入学したタイミングがコロナ禍だったこともあるけれど、今後はもっと他コースとの交流や行事を増やしてほしいです。後輩にはぜひリラックスして入ってきてほしい。この学校に入学してよかった！

第三部　在校生チャレンジ☆

司会　IY 有坂 梢

ピアノ演奏『ありがとう』卒業生　北條 萌香（2022年3月卒業）

動画制作発表『マイスペース』3M生徒2名

ダンス『POP!/NAYEON TWICE』2N 竹内 愛萌

三線演奏『島唄』1N 北條 賢心

弾き語り『裸の心』 2N 鈴木 涼子(左) 2Y 佐藤 征暉

プレゼンテーション『BTSとわたしたち』2Y 濵﨑 陽太（左） 2Y 山岡 絵里加

ダンス『ポッピンキャンディ☆フィーバー！』1L 春名 菜那（左） 1E 磯田 奈沙

ピアノ演奏『子犬のワルツ』2B 林 柚葉

ダンス『Grenade』3M 加藤 冴奈

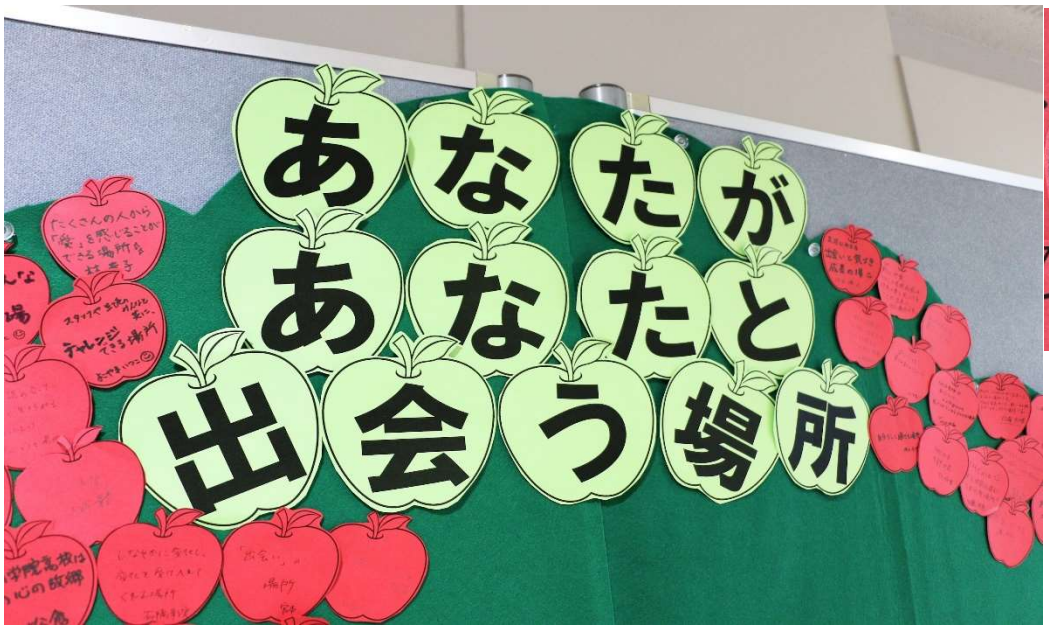
プレゼンテーション『夏の六甲キャンプ』

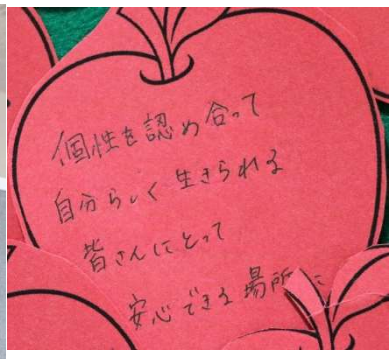
1E 磯田 奈沙　IE 井上 朝日珈　IE 小澤 晴樹　IE 大塚 葉音　IE 林 颯良

IL 春名 菜那　IN 北條 賢心　IE 山根 拓真　IL 山本 愛尋

生徒作品展示

1M 西田 結貴 1Y 有坂 梢 1Y 中川 悠斗 2M 金城 加奈 2M 松井 心望
3M 笠井 涼夏 3N 横山 慶太





ＹＭＣＡ学院高等学校
２０周年記念礼拝・記念発表会
－今の高校生が考えていること－<記録>

発行日　2023年3月31日
発行者　YMCA学院高等学校
住所　大阪市天王寺区生玉寺町1－3

みつかる。
つながる。
よくなっていく。

学校法人 大阪YMCA YMCA学院高等学校